令和6年2月8日 発行文責: 人権委員会

人権委員会だより

人権委員会より、今回は令和 6 年 1 月 18日 (木) に八尾支援学校にて実施された人権研修「子どもを健やかに育むこととは~教室マルトリートメントを防ぐために~」について報告いたします。なお、本研修は、保護者の皆様も参加可能となっており、当日は各学部から計 6 名の方が参加してくださいました。ありがとうございました。

1. はじめに

本研修は、大阪府教育センター支援教育推進室から麻生川 理詠指導主事に講師としてお越しいただきました。「子どもを健やかに育むこととは~教室マルトリートメントを防ぐために~」をテーマに、身近な子どもたち(児童・生徒・我が子)との関わり方についての講話をしていただきました。

マルトリートメントとは、1980年頃にアメリカで広がった表現です。マル(悪い)+トリートメント(扱い)=「不適切な療育」と訳され、家庭における不適切な療育を表しています。本研修では、学校現場での不適切な指導についての書籍「教室マルトリートメント(川上康則,2022)」の内容を基盤に、マルトリートメントを防ぐためにできることについて考えていきました。

2. 自己理解から子ども理解へ (麻生川指導主事の話より抜粋)

はじめは優しく言葉かけしていたのに、変容しない子どもに対して怒りを感じたことはありませんか?教員や親にも、それぞれの背景があり、それによって心情は変化していきます。心理学の視点から人の心や考え方について考えてみましょう。「認知バイアス」という言葉をご存じでしょうか?私たちの考え方のクセ(偏見、先入観など)のようなものです。「ピザって 10回言って…」などで知られる 10回クイズは、「プライミング効果」という認知バイアスを用いたものです。

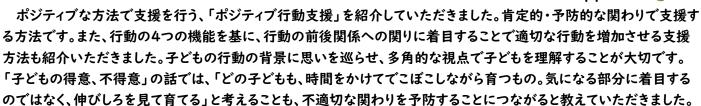
子どもに指示が伝わらない(言うことを聞いてくれない)時に、威圧的・高圧的に指導したり、子どもが自信をなくすような叱責をしてしまったり…といった不適切な子どもとの関わりも「自分がやっていること(指導)は正しい」、「多くの人が私と同じやり方をするはずだ」といった認知バイアス(フォールス・コンセンサス)が、関わっているかもしれません。子どもの人権を守るためには、誰しも「認知バイアスがある」ということを理解し、「なんでできないのだろう?」、「どうすればできるかな?」と、子どもの気持ちや状態を理解しようとする姿勢が大切です。そうすることで、指導者(教員、親)が落ち着いて対応することにつながり、不適切な関わりを予防することができるのではないでしょうか。

【様々な認知バイアス】

プライミング効果…直前に聞いたことで判断が左右される バーナム効果…占いが当たっていると感じる

フォールス・コンセンサス…自 分と同じ考え、同じ行動をする 人への割合を過大評価する傾向 他にも、ハロー効果、ピグマリオ ン効果、ステレオタイプなど

3. 効果的な支援方法として ポジティブ行動支援=PBS (Positive Behavioral Supports)



4. まとめ

時には、子どもを注意しなければいけない時もあります。そういった場面では感情が高まりがちです。その言葉、態度は子どもの人権を守っているか、育ち(学び)につながるものかを、今一度考えてみましょう。私たちは、「子どもの心を育んでいる大人」です。また、普段から意見交換、相談しやすい環境は、「マルトリートメント」が起こりにくいでしょう。学校全体で雰囲気作りに取り組んでいくことが大切です。

今後も子どもの人権について考え続け、皆様で「マルトリートメント」を予防していきましょう!

